

キャリアデザインセンターの取り組み

学生不安解消し長期的人生デザインを

昨年4月に発足したキャリアデザインセンターの学生支援体制が本格的にスタートした。

「キャリアデザイン」とは職業人生を長期的に描くこと。それは、大学での講義や課外活動、学外活動すべてが作り出すものだ。「将来像を描けず不安に感じていたり、単位は修得していても就職活動に際し自信が持てない学生が多いと感じていた」と池本正純同センター長。「不安を解消し、自信を持って社会に出ていけるような多彩なプログラムを用意したので、積極的に受講してほしい」と語る。

「主に1年次を対象とした教養特殊講義VII『キャリアデザインと社会知性の開発—自分探しのヒントを見つけよう—』では、キャリアカウンセリングの専門家を招き、自立に向けた自己発見を促し、課題発見能力、課題解決能力を育成します。これはまさに本学の21世紀ビジョン『社会知性の開発』です。また人生観、職業観の形成のきっかけを提供することで、低学年次から大学生活のビジョンを描けるようになります」と狙いを話す(履修者数約170人)。

「在学中にビジネススキルを磨こう！」がキーワードの「ビジネスソリューション講座」は、前半で基礎スキルとして、論理力や表現力を身につけ、後半では、各業界有力企業の人事採用担当者の講演を聞き、各自が選定した企業に対し企業価値向上の提案を行うというユニークなものだ。池本センター長は「時代が大きく動き、今までのビジネスの常識が通用しなくなっている。講座は、企業がどんな人材を求めているのか聞くことができる貴重なチャンス。積極的に、ある意味、攻撃的に受講し、緊張感のある講義を双方で作上げてほしい」と予想を超える数の受講者たちに期待している。

ほかにも課題解決に取り組む「地域密着型インターンシップ」、自己の強みと弱みを認識する適性検査「EQ～心の知能指数～」などが用意され、常駐のキャリアカウンセラーが、随時相談を受けつけている。

今後の予定などは**キャリアデザインセンターのウェブサイト**で確認を。



▲趣旨説明をする池本センター長



▲ビジネスソリューション講座第1回「論理的思考とは」には220人が参加。講師はパソナHR研究所主幹研究員の須東朋広氏



▲聞くだけでなく“発言”する機会も多いのが特徴



▲講座終了後も積極的に質問する学生

06年度学生団体役員紹介

【神田学生自治会】

委員長・竹中 茂雄(法4)

会計主任・樫見 徹男(法4)

【生田学生自治会】

委員長・山口 洋(文4)

会計主任・古賀 健(商4)

【学術文化会本部】

5月15日現在未届け

【連合県人会】

委員長・神宮 大輔(経済4)

副委員長・宮田 昇始(経営4)

【体育会本部】

委員長・星 哲平(商4)

副委員長・笠原 佑造(経営4)

【二部学生会】

委員長・久保田裕介(法3)

副委員長(外務)・田中 浩之(法3)

副委員長(財務)・丸山 幹二(法2)

≪国際交流センターからのお知らせ≫

「やさしい英語による経済学講座」

第127回国際交流特別講演会「やさしい英語による経済学講座」を次の通り開催。

▽講師＝英ブリストル大学のデビッド・ゴードン政策研究学部教授(専修大学経済学部客員教授)。アジアの貧困問題が専門。

▽日時 ①6月3日 ②同 10日 ③同17日 ④同24日 ⑤7月8日。いずれも10時～11時30分

▽場所＝生田キャンパス812号教室

▽申込受付中

第21回留学生と日本人学生の交流ボウリング大会

▽日時＝6月23日(金) 17時～

▽場所＝向ヶ丘遊園南口 ビッグボウル

▽定員(80人)になり次第締め切り

2006第2回TOEFL-ITP(模擬試験)

▽試験日＝6月15日(木)

▽申込期限＝5月24日

▽長期交換留学プログラム(豪ウーロンゴン大学、米オレゴン大学)申し込み可能最終試験

New Ground - 新しい見方<1>

「生田10号館」にかける想い

今号から「ジャーナリズム研究会」のメンバーに、学生の視点から専修大学と関連する事柄を題材に、コラムを執筆してもらいます。ご愛読ください。

「生田10号館」にかける想い

鈴木 啓太 (ネット情報3・ジャーナリズム研究会)

今回は記念すべき第1回として、昨秋に着工され、現在基礎工事の段階にある生田キャンパスの10号館(仮称:以下略)=写真=についてお話しします。



10号館建設は専修大学創立130年記念事業の一つ。地上6階、地下1階で、収容人数は5400人の予定。来年度からの利用を目指し、着々と工事が進んでいる。10号館が利用可能になれば、学生の大学内における利便性、快適性の向上が期待できる。

予想される利便性、快適性を具体的に挙げると、まず坂の傾斜の激しい部分を避けられることがある。向ヶ丘遊園駅から大学まで歩くことを「登山」、大学から駅周辺のことを「下界」と風刺気味にユーモアを含んで呼ぶほど、学生にとって坂の存在は大きく、歓迎されていないものである。10号館は、キャンパス内では最も低い位置に建てられた9号館とほぼ同じ高さに建てられる。その10号館から9号館へとつながり、他の館へもスムーズに移動が行えるだろう。

また10号館はゆとりを持った建物になるようだ。4階はレストランフロアとなり、さらに学生がくつろげるよう館内の各所にはホワイエが作られる予定。全館禁煙となっていることも非喫煙者にとってはありがたいこと。現時点で最も新しく建てられた9号館は、学生にとって他の館と比べてさまざまな面で過ごしやすと感じる場である。10号館が9号館よりも設備が整い、きれいで清潔感あふれる建物となれば、学生にとって嬉しい限りである。

工事が進み10号館が徐々に形作られて行くにつれ、私達の期待は大きくなっていく。生田キャンパスの一つの変革であるこの10号館。来年4月、足を踏み入れる日が楽しみで仕方がない。